

主な記事

新制大学の教育……………	1
原田親雄先生を憶う……………	2
原田先生……………	3
あなたは登録されましたか…	5
思い出の寄生木(?)……………	6
会員の近況……………	7

千曲會報

1959年4月1日

昭和34年4月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

新制大学の教育

信州大学繊維学部教授 八木 誠 政

現在の日本の教育制度は日本独自の立場において創設されたものではなく、第2次大戦の後に日本が外部の行動者から指導された結果到達した制度であることは否定できない。さればといって今更これを元に戻すことの不可能であるのは明白であろう。今はこの制度による教育をいかにしたら最も効果あるものとするかができるかを考えて実行して行かねばならない。

われわれは小・中・高校の教育についてはここで論ずるのをひかえる。当面の問題は新制大学の教育理念をいかに持つべきかである。この問題はわれわれ大学教育に従事する者が広く世界の大学教育を参照すると同時に日本国民の特性と潜在能力を透察して遠き将来をおもえばかかって誤りないものとしなければならないと思うのである。よってまず外国の大学教育の現状を照会して参考に供し、それによって日本の新制大学教育との共通点を発見することによりわれわれの指針としたい。私は大学基準協会の編輯にかかると「外国における大学教育」の中からアメリカにおける一般教育の問題をとり上げて見よう。ここに一般教育というのは日本において従来一般教養と称して来たもので、今では日本においても同じ名称をもっている課程である。

アメリカ大学の一般教養の理念

アメリカの文化は自由思想に立脚した多様性をもつ特徴が大学の制度及び組織にも影響して多種多様であるが、その教育目的は「社会の役に立つ人間」を作るにある点で一致している。然るにその役に立つ人間という内容がそれぞれの大学によって各種各様に解釈されているのは止むを得ないが、しかもそれぞれの大学当局者や教授その他の教員は自らの「教育理想を実現に移そうとする熱情」をもっている点は注目すべきである。現在の環境と経済的及び社会的背景のもとにある学生をどんな組織制度と方法とによってこの理想に最も近い教育を実施しようか、その教育の実践がアメリカ教育の改革となり進歩となっているのである。大学教育の実験的な方法は多様性を示しているが、その教育理念は要するに教育者

の強固な人生観と教育哲学の基礎の上に立っているのを看過することが出来ない。

日本の大学の一般教育

日本における大学教育の基礎は当然のことながら全国を通じて一つであること、その基準が比較的高く設定されている点からして、アメリカのそれよりも遙に優れた機能を発揮しうる筈であるが、おしむらくは、アメリカの一般教育を範としながら、その理念と実際とがわが国の大学当局者及び教授に十分理解されていないか又は誤解されている。次に旧制大学及び高等学校教育の旧形式にとらわれているか、または其等の長所を強調しすぎる余り、教員の大多数が現代という世界の時代における教育の位置及び重要性を十分認識できないといわざるを得ない状態にある。

わが国の大学基準協会はアメリカの一流大学の一般教育の理念と実際を範として出発したのであるが、前述の如く正しく大学当事者に理解されていないために現今では一般教育と専門教育との調和した実施が行われかねている、というのが日本における新制大学殊に大学院のない大学における教育を混乱に陥し入れているといえることができる。

一般教育の歴史

元来一般教育なる制度は発生的には英国に起ったリベラルエジュケーション(常識教育)がアメリカに渡ってジェネラルエジュケーションに変化したもので、国情を異にする英国の常識教育とは大学教育を受けるに当っての紳士の養成であって、それがアメリカに渡って民主化され一般教育となったものである。リベラル・エジュケーションの教育内容は教育と社会生活の関連性を重視し、優れた市民を生み出す点に重点を置いて学科目中心よりも学生中心となり、学科目の内容には巾を広くもたせ、教授すべき内容によって教科目が総合され、学問分野の境界又は区別は考慮される必要がないのである。従って直接職業教育とは関連が薄く、人間養成を主目的としているのである。

一般教育と専門教育

一般教育は右のリベラル性をいささか学問的に深くして専門教育の基礎となるべき学科目をカリキュラムに入れて履修させようとするのであって、換言すればリベラル・エジュケーションは全く高等な人格養成に主力を注ぐのに対し、一般教育はその上に更に専門基礎教育を施こそうとするものである。従ってアメリカの大学教育は、一般教育において専門学科の原則的なものをも習得させることによって完了し、専門学はむしろ短期間の大学教育にまっつなく実社会に出て営むべきであるとの思想が強く作用していると見られる。故にアメリカにおける一般教育は、低学年に限定されているとは定まっておらず、高学年においても一般教育を与えている。例えば最高の工科大学と目されているマサチューセッツ工科大学(M. I. T)でさえ高学年に至って一般教育の科目を履修させている。このためにアメリカではプロフェッショナル基準協会が一般教育の必要を説いてその実施を大学に要望している有様である。

結 言

以上記述した諸点によって、一応アメリカの新しい大学に

おける教育方針と日本の大学の現状とを比較し得たと思う。これを基として日本の新制大学ことに後学年に専門教育を施す修士や博士課程のない、大学における専門教育或は職業教育は如何にすべきかを考える必要がある。

私はここでアメリカにおいて小さいが優秀な教育を施している典型的なユルゲート大学を例に挙げ、わが大学教育の参考に供したい。即ちこの大学においては(1)一般教育が全学の教員に理解され実施されている。(2)専門科目と一般教育担当教員の区別がない。(3)全学部が一般教育に協力している。(4)一般教育科目が総合されている。(5)クラスは討論を主に教師と学生間に知的な連係が生まれ、新しい時代に対する批判力が養成されている。(6)総長始め学部長が一般教育の理念と実際とを十分認識している。以上である。

最後に日本における大学教育は如何にすれば理想的に行い得るか？ それは今日の日本が何を最も緊要とするか、又学生にとって何が最も必要かを深く考え、10年後20年後の日本人の養成に必要な諸点を大学教育者が認識して、これを教育上に実施すると共にこれを社会に指示して共に協力してもらうにある。

原田親雄先生を憶う

敬愛してやまなかつた恩師原田先生は心臓病を患われ去る1月25日未明72才をもって遂に御他界せられた。まことに哀悼の極みである。

先生は上田蚕糸専門学校創立の翌年から39年間母校の教授及び講師としてお勤めになり、昭和26年新制大学になってから潔く御勇退なさったが、その際私はその日迄の「原田先生」を拙文で記したことがある(昭26.6月千曲会報43号)から今回はかいつまんで先生の略歴や人となりなどを述べ、長男の親貞氏から頂いたお手紙により先生の内情をお伝えすることにする。

先生は明治19年(1886)2月10日高田市に誕生されたが、お家が士族だったため、北海道根室郡に移住され国防の重任に就かれた。従って先生はそこで小学校と中学校を了え更に青雲の志やみ難く、非常な苦学を決心して笈を負うて上京し、東京物理学校に学ばれ又東京理科大学で長岡半太郎博士の物理学教室に助手となり早くも当時の新しい物理学「量子論」と取組まれた。一方外国語学校では独乙語を学ぶ等昼夜をわかつた並々ならぬ苦闘を敢て求められていた。その頃上田蚕糸専門学校が創立されたばかりだったが翌明治45年、針塚校長に招かれて先生は講師として御着任、大正7年に教授に昇任せられた。以来物理学、数学、気象学、独乙語と市広



山 口 定 次 郎

い講義を担当された。一方学生課長(生徒監)として威厳があり同時に信望が厚かった。

昭和2年主として独乙にその他欧米に留学された。

先生はいつも学者として又教育者として強い信念と責任感をもち、正義と慈愛をもって人に接し、何かしら人を引着ける魅力をもっておられた。先生の独乙語は非常に有名なもので、特

にspeakingは極めて流暢であった。職員数名がレコードを用いて先生の教えをうけたが楽しい思い出である。相対性原理が発表されて間もない頃アインシュタインが日本に来て東京で講演し、先生はそれを聞いて来られたので、私達は談話会(職員のゼミナール)主催で先生にその解説をお願いした。職員学生が第四教室(当時の講堂)に一杯になった。先生は堂々2日間、昼夜にわたっての大熱演を振られたことがある。又前記「談話会」の指導者として20年もの長い間、若い学徒を激励し導いて下さったことなど何れも忘れえない思い出である。早くなくなった樋口琢麿、加美好男、小見益男さん等又去年なくなった松村季美さん等今は先生を迎えて永遠の国で談論風発という所であろう。

先生の個人生活は極めて質実、剛健をモットウとし、その独りをつつしみ、不満をいわず、深く思想しつつ人間完成

に努力された。学問の探究と学生の訓育のためには寝食も、健康も忘れるということもしばしばであり、一面家庭にあっては平生お弱かった奥様をいたわり、又8人のお子さん達の御教育には慈父として並々ならぬ御努力が払われたように思われる。尚奥様は昭和25年不幸にして病をえられ原町の家で御永眠されたが、先生の御志をうけまことに似合いの良妻賢母であられた。それだけに御子さん達が上京された後の原町の御生活は、私も一二度伺ったが、何かお寂しいものを感じた。先生は非常に潔癖だったので戦後の食糧欠乏の頃も絶対に開胃などされなかったが「どうも栄養不足で目が悪くて困る」といわれたので二、三度乾燥鮎を差上げた所、体にも目にも大変効果があると喜ばれていた。

26年には非常勤講師をされ28年に上京されたのであるがあれからもう7、8年にもなる。私は長男の親貞さんとは昔から色々のことで御愁意だったので、この度の先生の告別式にも参上できなかったお詫びを兼ね近況をお尋ねした所、早速次のような御様子を知ることができたのでここに記したい。

昭和28年7月父は上京。妹藤枝、弟幹雄(上田・化6回卒)弟英雄等と共に練馬区南町に生活。

11月頃から体の調子すぐれず床の中に過す日多し。明けて29年1月9日私(長男親貞)の世田ヶ谷の宅に落着き療養。1月15日心臓喘息の病状悪化、食慾皆無注射にて栄養保持。

1月27日、危篤状態に陥り弟妹親戚に通知、然し

2月7日漸く意識回復、2月10日自分の誕生日を床の中で迎え医師から奇蹟だといわれる。

6月床をはなれ体力次第に増し大好物のたばこをやめ、今迄の喘息の発作も殆ど起らなくなった。

その後段々外出できるようになり妹藤枝の渡米留学の話を進め31年2月6日妹が米国へ出発、その後は妹が無事卒業帰国の日を指折数えて待ち、それ迄健康でありたいということが父の念願であった。

それから3年の月日が流れ昭和34年1月14日、前々から孫

との約束があるとして、成人の日の休みを過すため調布市の姉つぎ子の家(芝村家)を訪問。

15日 食慾不振、芝村方にて床につく、医師に心臓稍衰弱、絶対安静の必要を申渡された。

23日夕6時 突如出血、衰弱甚だしく親戚一同参集、徹夜でリンゲルとカンフル注射。

24日、午後2時 妹藤枝米国より帰国。父は大いに喜び、子供達全部に会うことができて人生最良の日であると涙ぐむ。夕刻リンゲル及び輸血するも出血おさまらず。

25日 午前3時40分、最後迄意識明瞭のまま、各方面のお世話になった方々に感謝する旨をのべ、子供達に「正しく生き抜くよう」求めて他界。

このように先生の御臨終は凡ての御子様たちに守られ、御苦痛の中にも極めて平和に冷静に、最も貴い言葉を遺されるなど、先生にふさわしい御最後であったことを伺いえて私は深い悲しみの中にも、尊いもの、温かいものを感じ入敬服の念を禁じえない。

尚先生の御子様は8人で皆御健在、夫々次のように立派に成人されている。

長男親貞氏(43才)は京大文学部を卒業、軍隊生活も経験されたが、現在文部省初等中等教育局教科書課教科書調査官として重要な職にあり、又昭和女子大助教授を兼ねておられる。住所は

世田ヶ谷区上馬1の736で公子夫人と米国から帰られたばかりの藤枝様が御一緒にお住まいの様子。

丹下元子様、柳沢直子様は共に長野市に御在住、岡本みち子様は東京に、幹雄氏も東京に家庭をもたれ、英雄氏は東京の商工中央金庫に御勤めで夫々立派な位置について社会に御活躍の御様子である。

最後に親貞氏から千曲会員の皆さんに呉々もよろしくと申されていることを附記する。(1959.2.26)

原 田 先 生

原田先生がお亡くなりになった。電話でお知らせを頂いた瞬間、アメリカの藤枝様のことが頭をかすめて、何としたことか、と胸を打たれた。昨年11月末お訪ねし、小春日和の差込むお部屋で半日お話を承った際、いよいよ来年4月に帰ることに決めた。とおっしゃり、お帰えりになってからのことなど、あれほどお楽しみにしていらっしゃったのにと思ったからだ。早速小林啓介さんや山本岩三郎君に電話したが、誰も同じこと、初めにそれが言葉に出された。だがお宅に伺ったら、その藤枝様がちゃんと帰っておられるのではないかと。飛行機が羽田に着陸してから、時間を尋ね尋ね、お待ちになって、元気でお会いしゆっくりお話なされたとのこと、また各地においでになるお子様が全部揃って、お旅立ちをお見送りなされたこと、何か悲しいうちにもほっとした気分になった。

鈴 木 教 吾

先生に始めてお目もじしたのは福島市での入学試験の時だから、上田の先生では一番早かった訳だ。当時例の羊かん色の紋付羽織に、袴の紐を長く垂れ、髪の毛はぼうぼうとし、その上口ひげを生やしていた妙ちくりんな私の姿を見て、こんな奴にうっかり入学されては再び今度の様な……と心配になり、何としても入学は阻止せねばと考えたが、学校に帰ってからは何も申さなかったので、君は入学出来たのだと、三学年になってから笑い話された。当時山本岩三郎、橋本武光君等クラスのストライキ直後だったからだ。

生徒監になられたのは私どもの3年生の4月だったと覚えている。針塚校長先生に寮名を修己寮と付けて頂いたのも、蚕霊供養塔を立てて、毎年供養祭を始めたのも生徒監先生の意をうけて私どもがやったことだ。寮規を全く目的的に決めて先生に見て頂いたところ、にっこり微笑まれて承諾の意を

示されたが、2ヶ月程過ぎて、先生のお宅でスキ焼を御馳走になった席上、あの寮規で一番困るのは寮長の鈴木君と違って一寸心配だったが、その後あれを忠実に守っているのを知って安心した。とお誉めに与った。朝寝坊の私は第一時間目が毎日遅刻の連続だったのをご存じだったから。

数学の試験問題を見て、同級のS君が恐る恐る低い声で「先生、第二問の $-x^2$ は $-2x^2$ ではありませんか」と質問した。妙な質問だなあと思っていると、先生は「そう本にある問題は $-2x^2$ でしたええじゃそうして置きましょう」とあっさり訂正された。S君は本(教科書)の問題を全部暗記していたのだった。

三年の時 長谷川如是閑、大山郁夫の両氏を呼んで講演会をやったことがある。両氏は当時内務省のリストに載っている危険思想家だった。学校側では絶対中止と決定し、毎日私が登校すると教室に小使さんが迎えに来て、文芸部長だった三谷徹先生のお部屋に呼びつけられ、中止せよと命令されていた。ところが若気の至りで、どこが危険思想なのですか、なんて、両氏の著書や論文を持って行ってばらばらめくる。そんなことをしているうちに、期日は切迫して来る。遂に原田先生に呼ばれた。「その人の行動は総括的に見て判断すべきだ」と思う。入学以来の君の行動には信頼を置いている。長谷川、大山氏の思想内容はよく知らないが、君が大丈夫だと言うのだから、君の言を信じようと思う。教授会でもその立場から論議を進めている。今日明日には決定する筈だ」

と力強くおっしゃった。その夜針塚先生に呼ばれ、あれはやることに決定した。この責任は校長一人で負う。文芸部長は勿論君達にも絶対に責任は取らせないと断乎たる態度で申し渡された。その足で原田先生をお訪ねし、その旨を申し上げると、先生は、それは困る、校長先生までの線で食い止めなくては、とおっしゃられた。

こうした数々の先生に関係ある身辺雑事を書いて行くと、先生と私どもとはオータ(Order)に格段の違いがあることに気付くのである。

かつて西独 Krefeld の喫茶店で知合いのドイツ人から若い女詩人を紹介された。Rlines という28才のお嬢さんで当時西独詩壇の最先端に行く人らしく、最近何かの賞を受けたとのことだった。帰国してからその詩人が問題の詩集を送って呉れた。あの時あなたにこの詩集を上げようと思ったが

Mr. Schumann(紹介者)が Mr Suzuki はドイツ語が判らないから駄目だ、といったので思い止った。しかし後になってやはり Krefeld 御訪問の記念として差上げればよかった。と思い返し、お送りする。云々と英文の手紙が添えてあったこれを原田先生にお目かけ翻訳をお願いした。調和と不調和(Discordia Concors)と題する36頁の小冊なのだ。

最初通読したときどうやら大体わかった様な気がしましたので訳して御覧覧に供したいと思つたまゝ半年以上も過ぎました。………ロマンチックで象徴的な新感覚の詩人の意をくむことは私の様に詩心の欠けた其の上卑俗の雑事においまわされて遂に老いる心には殆んど不可能に近い様です。いざ日本語に移すとなると私には自国語に就いて驚くべき貧困であることに気がつきました(下略)。こうした御謙遜なお言葉を添えて全文を訳して下さった。その一節を次に記す。

「私どもにはほんの短い時間が与へられているだけだ。ああそも利用されずに逃げてゆく——」

われ等は愛することをしない。そのうちに死の神が来る汝がたつた今言つた言葉も永久に語らぬ日に凝固してしまふ。

それなのにわれ等は短い生涯を長い間の憤りや敵意で空費する。

そしてわれ等のいのちはとっとと過ぎて行く。」

と柔かい響きの豊かな詩語で続いている。全く詩想皆無の私にも、すらすらと読めるのである。

学生の時森鷗外訳“ファースト”を絶讃され原文と対照して全然言葉の構成の違うドイツ語の詩を、行の順序も行数も変えずに、しかもその詩境を完全に訳出していると申され、原文と訳文とを朗読されて感極った御様子を拝見してから、仙台に行つて阿部次郎さんの講義を聞いた際、鷗外のファーストに言及し、「鷗外の前に鷗外無く、鷗外の後に鷗外無し」と絶讃されたので、原田先生のお言葉を思い出し、早速その事を書いたお手紙を差上げたのだった。2—3年前拙宅にお見えになられた時書架から阿部さんのファースト(上下)をお持ちになり、原文と森、阿部両訳を根気よく対照なさった結果、阿部訳は現代文に書き換えただけで、殆んど森訳の通りだ。然し解り易い点ではやはり新訳の値打ちはありましようとおっしゃられた。自ら詩心の缺けたと申さる先生のお言葉だ。

千曲会員名簿発刊のお知らせ

先般発刊(昭和30年)した名簿も各位の住所に変更があり、今回新しく作成することになりました。明年は母校の創立50周年記念祭を行なう年でもありますので名簿もその事業の一つとして発刊したいと思います。つきましては本人の住所は勿論、友人或は最寄りの会員の住所も知っていましたら御知らせ下さい。尚市町村合併などで市町村名の変更したものは必ず御知らせ下さい。

本会には名簿発行の費用がないのでこの経費は会員各位の協力を願ひ購入していただくかねばなりません。したがって左記の要領で予約募集をし、経費をつくりたいと思います。事情御了察の上御協力の程御願ひします。

記

- 1 頁数 590頁 B 6版 会員約 4000名
- 1 発行予定期日 本年10月末日頃
- 1 頒布価格・未定 目下原稿作成中で近く印刷所と交渉して決定しますが大体 300円前後と思いますが(前回は250円ででしたが、印刷費その他が高くなっています。)

昭和34年4月 千曲会動静部一同

——あなたは登録されましたか？——

日本学術会議選挙要項公表さる 登録は5月8日まで
選挙は11月20日

日本学術会議選挙手引

日本学術会議第5期会員の選挙期日はいよいよ11月20日に決定しました。従来よりも20日早くなったわけですが、これについて有資格者およびこれから資格を獲得されるかたは、下記各項をご熟読のうえ、万遺漏のないようご処置ねがいます。

1 有権者のかた 前回有権者のかたは、すべて有資格者と認定されましたので、今回あらためて登録申請をされる必要はありません。

ただし、氏名・現住所・本籍地・勤務機関および職名・勤務地のいずれかに異動のあつたときは、本人から（死亡のときは遺族より）、管理会につきの様式によって届出ること。

届先：東京都台東区上野公園内日本学術会議中央選挙管理会

有権者異動届（用紙、はがき）

日本学術会議中央選挙管理会御中 氏名（ふりがな） 印	昭和 年 月 日 右のとおり異動がありましたからお届けします。 第〇部〇〇学〇〇地方区	五 勤 務 地	四 及 勤 務 機 関 及 職 名	三 本 籍 地	二 現 住 所	一 氏 名	(新)	日本学術会議 有権者異動届 (旧)

2 未登録のかた これまでには有権者でなかったが、研究・調査・特許など（印刷・口頭発表たるを問わないし、共著であってもよい）業績があり、大学卒業後2年または旧専門卒業後4年（本年11月20日現在とする）以上を経た者は、有資格者となる権利があるので、もれなくかならず登録されたい。

登録カードは管理会にあるので、つぎの様式にしたがって請求されたい。

登録用カード用紙請求書（用紙、はがき）

登録用カード用紙請求書

氏 名 （ふりがなをかならずつける）

現住所

勤務先・職名（または自営の職業名）

登録カード提出期限は5月8日管理会必着のこと。

3 所属部登録変更 前回登録されている所属以外の部または専門で、今回の選挙をおこないたいかたは、“第5期会員選挙のための登録にさいしては、現在の所属部または専門への登録を希望しない旨”の申請書（本人が署名、押印のこと）を添えて、5月8日までに、前項（2）の未登録のかたに準じて登録を求める。

4 有権者の認定 6月30日までに資格審査がおこなわれ、有資格者は“有権者名簿”に登録される。不認定の通知をうけた者はその通知が現住所に配達された日から20日以内に理由をつけた文書をもって管理会に異議の申立をすることができる。（この様式は下記対策事務所にある。）

5 所属部名および専門別区分
 第6部（蚕糸学・農学・農芸化学・林学・水産学・農業経済学・農学工学・畜産学）

6 投票 10月下旬から11月上旬ごろ投票用紙が各人あて郵送されるから、11月20日までに投票する。

7 その他 細部についてご不明の点は対策事務所にお問合せください。

登録カードは“日本科学者名簿”にも掲載されますので、有資格者はもれなく登録されますようお願い申し上げます。またあなたの最寄りに当然資格のあるべき人で、登録もれのかたがありましたら、ぜひ登録をおすすめてください。

母校、生物学教室内

日本学術会議選挙対策事務所

Senri Kuma SAI ON

思いでの寄生木(7)

静岡県 十九楽吐月峰

第1篇 60年の不作

第6節 (上) 上田の三ヶ年

○——(ウ)桜花と別れて信州へ

明治45年—明治時代最終末の一春4月の初旬、静岡地方は桜花満開の時期、花見と別れて飛白の和服に木綿袴烏打帽でコリ1ツと共に信州に出掛け初めて上田駅へ降り立った。未だ寒い周辺の山山は白雪ガイガイ、街路も家の屋根も残雪姿、



上田入学当時の筆者

成程山間の雪国だと初めて見る異境の雪国に寒むいの感を味った。出迎へて下った郷里掛川出身の北島先生宅に差当り落付き一夜コタツを珍らしがりながら上田蚕糸専門学校の沿革将来等について話を聞いた。即ち上田住居の序の口である。

○——(イ)入学当時の学校状況

上田蚕専は明治44年の開校でわれわれは第二期入学生であった。養蚕と製糸の二科だけであった。その内容など月並の沿革・履歴・校風などを述べる事は避けて本文は思い出す特異性の記憶トピックを断片的に書き集める事にするが、まず当時の開設早々の学校は内外共に殺風景そのもので校舎と桑園用地だけというに尽きた。周囲の構柵があるでもなく、桑園予定地は草地でこれから天地返しをして桑苗を植付けるといふ仕末前途瞭遠まるで昭和20年終戦後の開拓地に新設した開拓学校か満洲の広丘にあったであろう移民大学とでもいった景観の殺風景を呈していた。

○——(ロ)初めて酒を飲む歓迎会

当年の新入生を二年生が歓迎会を催してくれた。観水亭の広間で会費50銭位であったろうか。酒宴で生来18才初めて酒を口にしたものだ。その内に人の顔や天井がクルクル廻って来て初めて味う酔酩状態となり、帰宿後小間物を吐き出してコリゴリした。これで一生禁酒すれば60年も不作とはならなかったであろうに爾後悪友の指導で修業して60年不作の人生

を続けたのだから悔を一生に残した結果となったものだ。

○——(ハ)先生の中で光る針塚校長

多くの教授、助教授、講師の中で針塚校長だけは異彩を放つ存在であった事は18才の青年の目も狂いはなかった。われわれ60才の年坂を上ったこの頃の年輩から見れば若輩42~43才の校長は中年の準青二才に思えるが当時は左に非ず、堂々たる貫録信頼すべき校長として一校を統率する大黒柱であった。

その他の諸先生においては失礼な申分だが5~6人を除いては老旧生あり、見習生式の若僧ありの寄り集めとしか見られなかった。青年の目に映じた実相だ。

○——(ニ)当時の学生気質

実業専門学校特に農蚕方面の課目は実業中等学校の高級校としては羨望されたが普通中学校からの新入生には憧憬校ではない実感があつたようだ。その証拠に実業中等校から入った人は学科実習ともによく勉強し且つまじめで上位の成績生徒なるに反して中学校からの新入生は怠け者が多くてよい成績のものは少ない実証でわかる。この原因はいう迄もなく後者は(イ)優秀の入学生の少ない事(ロ)入学後勉強を怠け且つ授業を馬鹿にした傾向の二点にあつたといえる。大体として10%の人は(50人入学生の内5人位)良績だったろうか。

○——(ヒ)八チ坊在学行状記

幼名愛称「坊ちゃん」の入雄はここに至って、弁護士を夢をサラリと捨てて、一意蚕糸の道に入門すべく、遙々碓井峠を越して上田蚕専へ在籍今から三年を過す運命とあきらめ家郷の母から毎月工面して送ってくれる、17円50銭の学資で平々凡々の学生生活が初つた。

算数化学の嫌いな性格で学課はかなりの難渋で実験実習も苦手であった。中学5年の91点の得点だったのに比べて問題にならないのが偽わらざる事実であった。ツラツラ思つた事は自己の好む学業に入る事が一番大切な出発点だと身を以って味つた次第。一「得手に帆を揚げ」の古言は真実だと思つた。

八チ坊学生の行状として自分は反逆もせぬがファイトを燃して蚕糸の道に精進と学究的熱意を出す気にもなれず終始し

たものだ。即ち可もなく不可もなく父の新兵衛の指向する種屋の子二世となるため上田蚕専へ寄生木生活の第一年初まったのである。

一步出ずれば目新しい異境の山あり、河あり、浅間の煙、千曲川の流れ、その河原に咲く清き月見草あつて招いてくれる。偽文学青年の末席を汚して自然の山河を友とし、名物のソバに舌鼓を打ち近くの田舎温泉、別所、田沢、戸倉温泉に浸つて休養し、鳥なき里のコーモリを気取つて、日々の生活を営む八チ坊行状記であつた。

○——(ヘ)先輩善友悪友のあれこれ
同校の先輩も、友人も皆よい人々のみであつた。

先輩上級生で勉強家や頭脳明晰者、松村季美(33年末死亡)蒲生俊興の各位や外数名は学者として又蚕糸行政家としても数名の卓見人物もあつた。

同級生友人のまじめな唐沢正平、倉沢美徳などを初めとして小川金魚(32年死亡)は以後30余年水魚の交りの知人、その他後年遠州「森の石松会長」佐藤悪太郎、小笠原安重根(終戦の際朝鮮にて死亡)などの純良無慾の君などもあつて、静かな浅間山麓近くの学窓生活は自然の山間風景と共に青年八チ坊の性格に曲折を付けさせず真情愚鈍の人生路を歩ませる指導力となつたと思ふ。

(34.2.21稿)

卒業

倫子

真黒な煙はいつの間にか灰色になり
最後の坂をのぼりつめて
汽車は終着駅に着いた
どやどや、がやがや行き過ぎる足
網棚の荷物も整理せずわたしは
改札口を透して
コブコブしい裸のプラタナスの
並木を塵埃を
疲れきつた眼は肘の上でゆっくり動く
静まりかえつた車内を
コト……コト……コト革靴のひびき
「君」「君」降りてくれたまえ
始発の客が待っているんだ
はらいのけられた手は
とまどっていたが力強く肩を驚ずかむ
うつろう眼は まばたきもせず
みつめたまま降りて行った。

会員の近況

埼玉支会総会

昭和33年11月16日千曲会埼玉支会の定期総会を熊谷市魚勝に於て開催した。学校側よりは、中島・竹田両先生をお迎えし又県内居住の合田信一氏の参会の上、支会員31名が出席して午前11時開会された。会議は中島・武田両先生の母校や千曲会の近況報告、50周年記念行事への協力依頼に始まり、支部会務報告、会務審議も談笑裡に終り、50周年記念事業支部会員寄付金のことも、千曲会本会の割当総額を拠出すことに万場一致をもつて決議し、午後1時会議を終了した。会議終了後懇親会に入り、中島・竹田両先生を中心に母校の将来の在り方や蚕糸業の前途についての意見交換、懐旧談に話を咲かし午後5時終了解散した。

(武田一好記)



東海千曲会尾西地区便り

千曲会の各位、此の度東海千曲会の便りを御寄せ致します。北は木曾の清流に臨み、西は鈴鹿連峯の山々には白雪に包まれ伊吹嵐が膚を刺す如き今日此頃、濃尾平野の中心、織都一ノ宮市において去る一月十日尾西地区の会合を致しました。皆様御承知の如く尾西地方は毛織物を中心とした。紡績業、染色整理業者が蜂の巣の如く密集しているため、千曲会の諸兄も此の方面の諸会社に五十余名が活躍されています。

然しながら近隣の諸会社においても、現場関係の職務の方が多く、お互に顔を合せる機会に恵まれず今日に至りました。

偶々東海千曲会支会長に杵掛久雄氏が就任され、新春早々初顔合せ致す可く世

話人有志の方々の御協力に依り、御連絡申上げたる処、28名の会員の御参集を得て、盛況なる夕の一刻を過すことが出来ました事は洵に慶ばしい事と存じます。杵掛支会長より、東海千曲会の運営方針について御説明あり、東海千曲会は全国の千曲会支会の中でも特に低調なる汚名を挽回すべく各位の御協力が望ましい点について力説され、尚当日千曲会本部より遠路態々野口理事長が出席下され、千曲会の運営並母校五十周年記念事業の協賛方を要望されました。互に杯を重ねる毎に在学時代の憶出話は尽きません。支会長提案による修己寮名物応援バツパまで飛出して参りました。

思は遙か千曲川に映ゆる名月に馳せて、母校の校歌の斉唱、万才を三唱して盛況裡に閉会致しました。出席の各位は勿論、都合悪く出席されなかった方も共今後共東海千曲会発展に御協力の程を願います。

(化二回 熊田誌)



兵庫支会に若人の集い

「六甲会」誕生す

昨秋十月の一夕千曲会兵庫支会有志の会同において提起されその後順調に具体化が進んで去る師走半ば正式に誕生を見た六甲会は母体である兵庫支会の若手メンバーを軸とし先輩諸兄の暖かい御理解のもとに新春を期して漸く活動態勢に移ろうとしております。

東京白雪会を代表格として他地方にも色々のグループが作られ、それぞれ独自に有意義な躍動を続けておりますが、本会設立の狙いも兎角疎遠になり勝な同窓

生の交歓を深め千曲会の円滑有効な前進の地固めを使命として歩一歩地道に勉強してゆこうとの考えに外なりません。

たまたま思い出深い烏帽子ヶ岳にも似た関西の名峰六甲山を擁しておりますので、朝に夕に望郷の想を新たにしつつ頑張る気持でおりますので皆さん宜しく叱咤激励して下さいます様お願い申し上げます。

猶六甲会の役員は下記の通りです。

- 六甲会々長 堀江 章 (糸32)
 - 〃 幹事 岸本礼一 (紡24)
 - 〃 〃 宮入治男 (糸35)
 - 〃 〃 中村富隆 (大糸5)
- (岸本記)

東三部会に出席して

東三部会が1月17日に豊橋で開かれ私が出席することになった。東海支会支会長杵掛久雄氏の肝いりで数地区で次々と部会を開いているという熱心さである。去る1月10日にも一ノ宮市で尾西部会を開かれ野口理事長が出席されたが非常に盛会だったという。

私は飯田線の「快速」で天竜川に沿い平岡、佐久間などの大ダムを眺めて下り、午後2時すぎ豊橋についた。駅には杵掛、原茂、松田得治のお三人に迎えられ、3分許り歩いて会場に着いた。

総会と親睦会の模様は別記原さん(東三部会長)の記事の通りである。こゝでは新城市内の中学校長の原(蚕13)、豊橋市在住で愛知県教育委員会指導主事の松田(蚕28)というようなお二人の重鎮が、熱誠をこめて会の運営や募金の事業にたづさわって下さるので非常に心強かった。他の諸氏も皆しばらくぶりの人々であったがお会いしてみると色々の御意見もきくことができ、親しさも増し意義が深かった。何といっても、母校と会員との間により一層、温かい赤い血の流れを盛にすることが大切だと思った。その夜は別の旅館で杵掛さんと枕を並べて語り合ったが、氏は、夜も朝も、遠い他県の関係者へ仕事の打合せの電話をかけるなど、自社のためにも常に心を使っていた。千曲会のためこのように貴重な時間を献げて下さる諸兄の多いことを改めて感謝する次第である。(山口)

50周年記念事業費申込
(3月5日現在)

- 1 北九州支会
 - 2,000円 樋田 高久(蚕 37)
 - 1,000円 中島 章夫(学蚕 3)
 - 3,500円 上原 真徳(蚕 26)
- 2 鹿児島支会
 - 5,000円 中山 吉二(蚕 12)
 - 1,000円 酒匂 景雄(蚕 22)
- 3 安筑支会
 - 5,000円 二木 猪一(蚕 8)
 - 2,000円 山野井文夫(蚕専)
 - 1,000円 上条 敬典(学蚕 2)
 - 5,000円 藤本衛佐雄(蚕 16)
 - 3,000円 船田 敏夫(蚕 30)
 - 5,000円 曾山 高祥(蚕 4)
 - 5,000円 伝田 邦雄(糸 37)
- 4 岐阜支会
 - 5,000円 榎本 健治(紡 13)
- 5 山形支会
 - 4,500円 鈴木正一郎(蚕 22)
- 6 島根支会
 - 5,000円 蒲生 勇一(糸 10)
- 7 茨城支会(第2回目)
 - 500円 細川 整(糸 38)
 - 1,000円 小原 真(糸 37)
 - 2,000円 塩入 勤(蚕 30)
 - 3,000円 船後 勇平(蚕 6)
 - 3,000円 丸山 十吉(蚕 12)
 - 2,000円 大工原 卓(蚕 36)
 - 4,500円 渡辺 嘉博(蚕 22)
 - 2,500円 影山 剛(蚕 33)
 - 2,500円 永井 保市(化 4)
 - 3,000円 生天目久平(蚕 25)
- 8 三丹支会
 - 10,000円 的場 小六(糸 6)
 - 8,000円 高馬 一郎(糸 17)
- 9 愛知支会
 - 5,000円 杏掛 久雄(蚕 19)
 - 4,000円 加藤 沼二(蚕 24)
 - 3,000円 石井 耕一(蚕 30)
 - 2,500円 兎玉 郁郎(蚕 33)
 - 2,000円 若林 庫男(蚕 36)
 - 2,000円 塩入 勲(紡 20)
- 10 神奈川支会
 - 3,000円 滝沢 恒雄(糸 31)

- 5,000円 有賀 康人(糸 14)
- 11 東京支会
 - 5,000円 酒井 嘉美(蚕 17)
 - 3,500円 中原 亨(糸 28)
- 12 上小支会
 - 1,500円 高橋 俊雄(糸 28)
- 小計 131,500円
- 異計 1,096,950円

蒲生俊興先生退官記念品代
(自2月1日至3月5日現在)

- 金 1,000円 金崎 真英 蚕 9
- 高木 修 // 20
- 竹内 善吾 // 15
- 金 500円 横山 豊彦 // 35
- 塚田 典次 // 25
- 熊谷 恒次 // 16
- 坂口 文吾 // 34
- 兎玉 郁郎 // 33
- 池田三之助 // 16
- 白沢 幹 // 5
- 金 300円 酒井 嘉義 // 17
- 江口 嘉清 // 27
- 金 200円 渡辺 昭典 // 37

倉沢美徳先生退官記念品代
(自2月1日至3月5日現在)

- 金 1500円 竹内 善吾 蚕15
- 金 1000円 金崎 真英 // 9
- 高木 修 // 20
- 兎玉 郁郎 // 33
- 金 500円 塚田 典次 // 25
- 熊谷 恒次 // 16
- 坂口 文吾 // 34
- 白沢 幹 // 5
- 金 300円 酒井 嘉義 // 17
- 江口 嘉清 // 22
- 池田三之助 // 16
- 金 200円 渡辺 昭典 // 37

本会日誌

- 1月17日 東海支会
東三河地区総会に山口理事出席
- 2月8日
東海支会名古屋地区総会に野口理事長

- 出席
- 2月14日
南佐久支会総会に萩原理事出席
- 2月17日
安筑支会に町田理事出席

母校だより

○2月7, 8日の2日間にわたって菅平で行われた学部対抗スキー大会の成績は下の通りである。
 総合成績 1位・農学部 2位・教育学部分校、繊維学部。滑降競技 1位・教育学部分校 2位・繊維学部 回転競技 1位・農学部 2位・繊維学部 長距離競技 1位・農学部 2位 工学部 継走競技 1位・工学部 2位・農学部
 ○3月7日(土) 科学教育研究室の修了式が行われた。修了者は高, 中, 小学校教員16名である。
 ○3月10日(火)33年度卒業, 修了証書授与式が厳粛に行われた。本会から証書入筒を贈与した。

会費を納めて下さい

年度末の納入が悪く会報の発行も危ぶまれる状態です。未納の方は至急御納入下さい。

訂正

前号本会日誌中1月10日東海支会云々は同支会一ノ宮地区総会で、野口理事長出席につき訂正。

編集後記

本年も新しい卒業生を皆様のおそばえ御送ります。何分よろしく御願います。
 編集理事 田口亮平・白井美明
 編集顧問 小山長雄
 編集部員 一之瀬匡興・三石賢・矢彦沢清允・篠原昭・降旗剛克